



子供がいて先生がいる

福島県中学校長会会長

三瓶芳徳

○はじめに

毎年新学期が近くなると、本県のように過疎県では、きまつて、辺地の学校の廃校のニュースが寂しく伝えられます。本年度も、金山町の玉梨小、大塩小、また双葉広野中の簗平分校等が統合のため廃校になりました。そのためごとに考えさせられることがあります。

「子供がいて、学校があつて、先生がいるんだ……」

ということを。

○教師の根本的な考え方

私は教師であるものの考え方の原点は、ここにあるのではないかと思っています。指導面も管理面も、子供が存続してはじめて成り立つものと思います。私たち教師、学校関係の職員はこのことを銘記したいと思います。

○私たちの反省

私は、以前に県の音研に関係していることがあります。その時、A市在職B教師の一年生の授業を参観したことあります。

授業が始まつて間もなく、

「〇〇さん、顔色悪いね、だいじょうぶ?」

「ウン。」

「〇〇君、本忘れたの?……」

「…………」

ベビー・オルガンを教室のまん前に出して子供から絶対目を離しません。一

人一人の子供の動きを全部見ながら、次々と授業を進めていきます。まさに子供がいて、先生がいるすばらしい授業でした。

また、C市の学校公開でのD先生の授業です。型のごとくピアノの礼が始まりました。「みましょう授業」です。前に相当練習したと思われる三拍子のドリルです。

「こちらの組が強いところ、そちらの組が弱いところを打つのですよ、さあ、やつてみましょう。」

先生はピアノの楽譜ばかりみているのです。同じこと何回もやっているうちに子供は飽きてしまいました。何やら誰かが気分が悪くなつたらしい。白い記章を着けた別な先生が（同校の隣組の先生）そつとその子を保健室に連れていきました。D先生は、何知らぬ顔で授業を続けました。

私も毎週月曜日の朝会に、生徒の前に立ちます。あまり勧善懲惡ではおもしろくないと思い、なるだけ生徒の関心の深いもの、新鮮味のあるものと心して話しているつもりですが、過日、朝会が終わるとすぐ、三年のクラスに行つて校長が何話したかきいてみてびっくり、六人しか手が挙がらなかつたのです。つくづく考えました。

これで「生徒がいて、学校があつて校長がいるのか」…と。